

## 研究の成果と課題

### 1. 考察力を高めるための「ほんとかな？」場面の設定(理科)

「ほんとかな？」という活用場面を設定することで、追究により得られた知が強化、一般化、再構成されるということが、多くの学年の実践で明らかになった。そして、そのように知が再構成されることによって、自然事象をより論理的に説明できるようになる姿も見られた。

また、「ほんとかな？」思考の場면을くり返し位置づけていくことによって、追究によって得られた知を「もっと差を大きくすると・・・」や「ほかのものに当てはめてみてもそうなのか・・・」など活用しようとする姿勢が引き出されるということも分かった。また、そのような子どもは自ら考え始めるようになり、自力解決を楽しむようになってきていることも分かった。積み上げることによってそのような力が伸びていることが確かめられた。

さらに、今年度は「ほんとかな？」思考の新たなタイプとして「逆思考」というものがあると整理することが出来た。逆思考というのは適用できる場面が多く、これからも「ほんとかな？」思考場면을教師が構想するための1つの視点になると考えられる。さらに、子どもたちにそのような思考が身につけていけば、子ども自身による自発的な「ほんとかな？」思考につなげることができると考えている。

3年間の積み重ねによって、それらの力は確実に伸びてきている様子が各学年の実践からうかがえる。今後も継続することによってさらなる定着を図っていきたい。

しかし、今年度から取り組み始めた、「やってみたいこと、生かしてみたいこと」を表現する場면을年間を通してくり返し保障していくという取り組み(青四角)については、課題が見られた。

その取り組みによって自発的に「ほんとかな？」思考をし始める子を育てる側面がある一方、教師の方でそれを十分に整理しきれないという難しさもあることが明らかになった。今後はその姿勢は大切にしながら、取り組みの形は見直しが必要であると考えている。

### 2. 気付きの質を高めるための「見つける・比べる・たとえる」学習活動(生活科)

「見つける・比べる・たとえる」学習活動をくり返すことによって「気付くこと」、「気付きの質を高めること」につながる姿が多く見られた。加えて、「見つける・比べる・たとえる」学習活動を支えるために次の重要なことにも気付くことができた。

まず、「見つける・比べる・たとえる」学習活動は強い思いや願いがなければ進まない。様々なやり方を試せる活動であることや体感できる活動であること、くり返し体験することが思いや願いを引き出すために重要であることが分かった。また、前の姿と今の姿を比べることや違いを認識することが願いや思いをより焦点化させ、追究意欲につながることも明らかになった。

さらに、「見つける・比べる・たとえる」学習活動を引き出すためには交流の場面が大きな働きをすることも改めて確かめることができた。実物をもとに交流すること、工夫できる要素をしぼること、意図的なグルーピングをすることなどを意識して交流することで「見つける・比べる・たとえる」学習活動が引き出され、気付きの質の高まりにつながっていくことが分かった。

明成版ルーブリックについては指導案作成時に整理し、本時において活用し、指導支援の手

立てとした。事前に作成することは、子どもたちの思いや思考を見取る上でとても有効であった。しかし、授業の中で即座に生かし活用するためにはまだ課題があるといえる。

### 3. 表現力の育成

#### (1) 話型指導

話型表を用いた話型指導を継続してきたが、話型が子どもたちの思考を支える働きをするということについては、成果があると考えられる。しかし、現在の話型表にある話型については高学年では自然に使えるようになっている姿も見られ、現状にあわせて改善していく必要がある。

一方、型にはまった受け答えにつながる懸念が指摘されている。実際は理解していなくても「はい分かりました」と反応する姿などが見られることがあり、ある意味「うのみにしてしまう」姿がここにも現れていると考えることが出来る。今後は、お互いがよりよく関わり合える視点で、話型指導のあり方を改善していきたい。

#### (2) ノート案

ノート案を作成することによって、子どもの立場で思考する手がかりとなった。また、考察の力という読み取りにくい力を評価する指標にもなり、この取り組みは有効であったといえる。「望ましさの注釈」は、ノートでの表現から子どもたちの思考を読み取る手がかりになることはもちろん、子どもたちの発言を即座に評価する指標としても役立つことができた。今後はその望ましさの注釈を分析、整理していくことで、子どもたちの発達に応じて、より系統的に活用することができるようになると考えられる。

来年度の研究の方向

自力解決力の育成

取り組みの重点(案)

#### ① 自発的なほんとかな思考の育成をめざす

手段として青四角の取り組みを改善して進める

これまで3年間のほんとかな思考場面を整理して、構想の助けとする

(カリキュラム・ほんとかな思考の4タイプに位置付ける)

ノート案を活用し、ほんとかな思考が育成されたかどうかという評価に生かす

#### ② 関わり合って高まる力の育成をめざす

関わり合って高まる力を育成するために

考え・思いを『もつ』、『表現し、伝える』2側面のスキルを育成する授業に取り組む